株主通信
vol.46

RYOWA REPORT

空気と水のテクノロジー

第 74 期 業績のご報告

2022年4月1日～2023年3月31日

1 ごあいさつ／トップインタビュー
4 施工実績
5 テクノ菱和の技術の紹介
6 テクノ菱和のCSR
7 連結財務情報
9 会社概要／株式の状況

空気と水のテクノロジー
株式会社テクノ菱和
証券コード：1965

株主のみなさまには、平素より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、テクノ菱和グループは、このたび第74期（2022年4月1日から2023年3月31日）の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

株式会社テクノ菱和
代表取締役社長執行役員　黒田英彦
Hidehiko Kuroda

経営理念

「空気と水のテクノロジー」を通じて
環境にやさしい生活空間の創造を目指す。

環境エンジニアリングを中核事業とし、
ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。

人材の育成・教育を重視し
働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

行動規範三訓

逞しい心身の鍛錬

意志疎通の徹底

技術力の研鑽

Q 当期の建設業界を取り巻く環境はいかがでしたか?

A 当期のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が進み、経済活動が正常化に向かったことで、景気は緩やかな回復基調となりましたが、資源価格の高騰や世界的なインフレとそれを抑制するための金融引き締め政策により世界経済の減速が進み、年度末にかけて製造業を中心に景況感が悪化する展開となりました。

建設業界におきましては、公共投資は前期と同水準の推移となり、設備投資は企業の積極的な投資意欲が維持されていることから、緩やかな増加傾向が続き、前期を上回る水準となりました。

Q 当期の業績はいかがでしたか?

A 当社グループの連結業績は受注高73,559百万円、売上高61,030百万円、営業利益3,175百万円、経常利益3,557百万円、当期純利益2,339百万円となりました。

当期は好調な受注環境を背景に複数の大型物件を受注できたことから、受注高は大幅に増加し、工事の進捗も順調に推移したことから、売上高も前期を上回る結果となりました。利益につきましては、工事粗利益率が低下したものの売上高が増加したことから、前期と比べて増益となりました。

	当期（百万円）	前期（百万円）
受注高	73,559	59,603
売上高	61,030	56,905
営業利益	3,175	3,013
経常利益	3,557	3,385
当期純利益	2,339	2,237

（注）本報告書において、当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指します。

Q 来期の方針を教えてください。

A 来期につきましては、中期3か年事業計画に則り、医薬品・食品・電子デバイス関連をはじめとする産業設備を中心にバランスのとれた受注を推進するとともに、事業所の垣根を外した効率的な人員配置による施工体制の強化を進め、企業の設備投資需要を取り込んでまいります。また、建設業界全体において喫緊の課題である改正労働基準法による時間外労働の上限規制に対応するため、DXの推進による業務の効率化や採用活動の強化による人材確保に取り組み、働きやすい職場環境の実現を目指すとともに、省エネ技術を駆使した設計・施工により持続可能な社会の形成に寄与してまいります。

Q 来期の業績見通しを教えてください。

A 今後のわが国経済は、海外景気の悪化を背景に輸出の低迷が続くことが予想され、エネルギー価格を中心とした物価の上昇も懸念されておりますが、雇用環境は改善傾向が続き、賃上げの動きも拡がってくるなど、コロナ禍で抑えられていたサービス消費を中心に個人消費は緩やかな回復が見込まれることから、景気は少しずつ持ち直していくものと思われます。

建設業界におきましては、公共投資は当期並みで推移するものと思われ、設備投資は、企業の設備投資意欲の高まりが継続することから、好調であった当期と同水準となる見込みであります。

このような状況を踏まえ、来期の連結業績見通しにつきましては、受注高62,000百万円、売上高70,000百万円、営業利益3,450百万円、経常利益3,700百万円、当期純利益2,430百万円を見込んでおります。

	来期予想（百万円）
受　注　高	62,000
売　上　高	70,000
営 業 利 益	3,450
経 常 利 益	3,700
当期純利益	2,430

Q 株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A 来期（第75期）は中期3か年事業計画の最終年度であると同時に、2015年に策定しました「中長期経営ビジョン2023」の締めくくりの年となります。当社グループといたしましては、来期の方針で示した施策を着実に実施し、課題を一つひとつ解決していくことで、今後策定する新たな中期3か年事業計画や中長期経営ビジョンへの足掛かりとなる年にしてまいります。また、サステナブルというキーワードを目にする場面が増えるなかで、ESGへの取組みを深化させるとともに、培ってきた技術をいかして脱炭素社会の実現にも貢献し、企業価値の向上に取り組んでまいります。

当期の期末配当金につきましては、業績ならびに今後の事業展開等を勘案いたしました結果、1株につき20円とし、年間では前期より4円増配となる1株につき36円とさせていただきました。

当社グループのより一層の発展に向けて、全力で取り組んでいく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

三菱重工相模原ダイナボアーズとプラチナパートナー契約を締結しました

当社は、ジャパンラグビーリーグワンに所属する三菱重工相模原ダイナボアーズとプラチナパートナー契約を締結いたしました。同チームは地元小学生へのラグビー教室の開催や、神奈川県警と連携協力協定を結ぶなど地域に根ざした活動を行っており、当社といたしましては、チームへの後援を通じて社会貢献活動に参画してまいります。

キャプテンの岩村昂太選手と当社社長の黒田英彦

中外製薬株式会社 中外ライフサイエンスパーク横浜 W-08棟

概要	
完成年月	2022年10月
施工地	神奈川県横浜市
建物用途	研究所
延床面積	17,245.48㎡
階数	地上6階
工事範囲	空調・給排水衛生設備工事

本物件は、国内における創薬研究に関わる全機能を集約した研究開発拠点であります。この研究施設では国内製薬企業で初めて導入されたクライオ電子顕微鏡装置やロボティクス技術などが取り入れられ、研究生産性の向上が図られております。また、地域の景観や省エネルギー化にも配慮されており、建物の環境性能を評価するCASBEE横浜認証制度において最高位「Sランク」を取得しております。

京都市中央卸売市場第一市場 新水産棟

概要	
完成年月	2023年3月
施工地	京都府京都市
建物用途	卸売市場
延床面積	42,019.71㎡
階数	地上３階
工事範囲	空気換気・給排水衛生・自動制御設備工事

本物件は、施設の機能強化と安全・安心な生鮮食料品等の安定供給を目的として再整備された施設であります。新水産棟全体が閉鎖型施設となっており、エリア毎に最適な温度設定を行うなど、HACCPの考えに沿った衛生管理に加え、市場業務に応じた国際基準にも対応した高度な衛生管理を取り入れております。また、災害時においても市場機能を維持するため、中圧ガス管の採用やマイクロコージェネレーション、地下水処理設備の導入がなされております。

SMC株式会社 下妻第2工場

概要	
完成年月	2022年5月
施工地	茨城県下妻市
建物用途	工場
延床面積	27,795.00㎡ ※
階数	地上３階
工事範囲	空調・衛生・消火設備工事

※当社施工範囲の延床面積を記載しております。

本物件は、半導体製造装置に必要とされる各種自動制御機器製品の生産能力を高めるために建設された工場であります。また、同工場は生産能力の増強という目的のみならず、大規模自然災害など不測の事態に備えた生産拠点の再編成を進める同社の事業継続計画(BCP)の観点に基づいて建設されており、複数の生産拠点による安定供給体制の構築が図られております。

静岡市歴史博物館

概要	
完成年月	2022年7月
施工地	静岡県静岡市
建物用途	博物館
延床面積	4,885.86㎡
階数	地上4階
工事範囲	空調・換気・自動制御設備工事

本物件は、『静岡の過去を学び、今を知る。そして、未来を考える。』をテーマに、静岡市の歴史文化を発信するため、駿府城公園のすぐ南に建設された施設であります。この施設では、かつて駿府を拠点としていた今川氏や徳川家康に関する資料が展示されており、また、施設の1階には、建設前の発掘調査で見つかった戦国時代末期の道と石垣の遺構が、発掘当時のまま公開されております。

テクノ菱和の技術の紹介

私たちテクノ菱和は「空気と水のテクノロジー」を基本理念として、お客様のニーズに応える最適な環境システムの提供を目指し、新しい技術の研究開発に取り組んでおります。今回はそのなかから、当期より開発中の「BIM Scope」についてご紹介いたします。

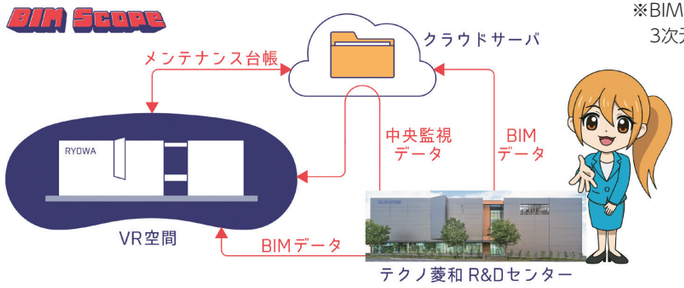
研究開発 BIM Scope（ビムスコープ）

当社では建築BIM※データを建物の設備メンテナンスに活用できる「BIM Scope」の開発に取り組んでおります。当期は開発の一環として当社R&DセンターをBIMデータ化し、建物全体のバーチャル空間を作成いたしました。キャラクターを自分で操作し、バーチャル空間を巡回することができるため、部屋と設備の位置関係を直感的に把握しやすく、ゲーム感覚で設備点検できるシステムとなっております。

このシステムは、中央監視システムやメンテナンス台帳と連携しており、設備管理に関する情報をリアルタイムで取得することが可能です。例えばバーチャル空間上で空調運転している部屋に入ると、その部屋の現在の温湿度やCO_2濃度が表示され、空調が適正であるか確認できます。また、機械室で空調機器を選択すると、機器の名称、仕様、運転状態および点検履歴等が表示されます。

このようにバーチャル空間上に情報を集約することで、設備管理の効率化・省力化を図ることが可能となっております。今年度中の実用化を目指し、研究開発を進めてまいります。

※BIM：Building Information Modelingの略称。
3次元モデルを用いて建物の設計管理を行う手法。



BIM Scope 操作画面

テクノ菱和のCSR

私たちテクノ菱和は、すべての事業活動を通じてステークホルダーのみなさまに対して、価値を創出し信頼を獲得していくことで、社会全体とともに持続的に成長していくことを目指し、継続的なCSR活動に取り組んでおります。

「テクノ菱和CSR調達方針」の策定

CHECK

当社は、企業の社会的責任を果たすため、サプライチェーン全体（原材料調達先から納品までのすべて）を対象とする「テクノ菱和CSR調達方針」を2022年4月に策定いたしました。この方針では法令の遵守や公正な取引、人権の尊重などCSR調達を行う上で重要となる指針を定めております。また、調達方針とともに、環境の変化に機動的に対応できるよう「CSR調達ガイドライン」も策定いたしました。これらの方針のもと、取引先のみなさまとのパートナーシップを尊重し、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めてまいります。
（詳細はこちらをご覧ください：https://www.techno-ryowa.co.jp/csr/csr_procurement_policy/）

「パートナーシップ構築宣言」の公表

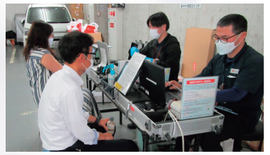
CHECK

「パートナーシップ構築宣言」とは、企業規模の大小に関わらず、企業が「発注者」の立場で自社の取引方針を宣言する取組みであり、当社は2022年9月にこの宣言を策定・公表いたしました。具体的な内容としては、価格の決定方法や手形の支払条件等における下請事業者との望ましい取引慣行等について掲げており、宣言を通じて取引先との共存共栄の構築を目指してまいります。
（詳細はこちらをご覧ください：https://www.techno-ryowa.co.jp/cms/wp-content/uploads/2022/09/partnership_2022.pdf）

パートナーシップ構築宣言

献血への協力

2022年6月に大阪支店にて献血活動を行いました。当日は大阪府赤十字血液センターの献血バスにお越しいただき、約30名の社員が献血活動に協力しました。初めて献血を行ったという社員も多く、今回の献血を通して社会貢献に対する考えを見直すきっかけになったという声もありました。今後も定期的に献血活動に協力してまいります。



受注高	売上高	経常利益	当期純利益
73,559百万円	61,030百万円	3,557百万円	2,339百万円
＜ 前期比 23.4%増 ＞	＜ 前期比 7.2%増 ＞	＜ 前期比 5.1%増 ＞	＜ 前期比 4.5%増 ＞

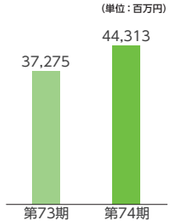
受 注 高 構 成 比

（総受注高に対する割合を示しています。）

産業設備工事

60.2%　44,313百万円

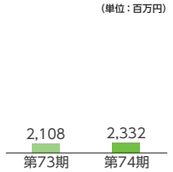
当期は、医薬品分野および電子デバイス分野において大型工事を受注できたことから、前期を上回る受注高となりました。今後も当社の得意とする産業設備工事を中心にバランスのとれた受注を推進するとともに、ライフサイクル一貫ソリューションビジネスを実践し、お客様との関係強化に努めてまいります。

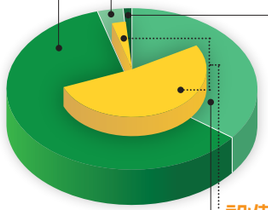


電気設備工事

3.2%　2,332百万円

連結子会社の松浦電機システム株式会社が、発電設備、太陽光発電やLED照明などの省エネルギー技術の提案・施工・メンテナンスを実施しております。





冷熱機器販売

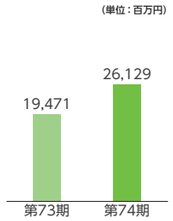
1.1%　783百万円

設備工事に関する空調機器等の販売を行っております。

一般ビル設備工事

35.5%　26,129百万円

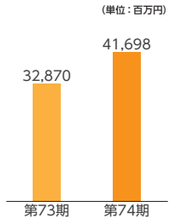
当期は、学校施設や事務所ビルなどを中心に受注が堅調に推移し、前期を上回る受注を確保できました。今後も継続的な設備の更新需要を取り込むとともに、学校や病院をはじめとするインフラ需要にも対応し、受注拡大に努めてまいります。



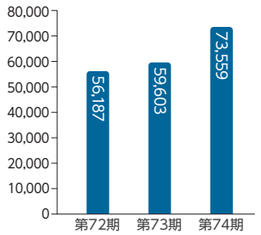
設備改善工事

56.7%　41,698百万円

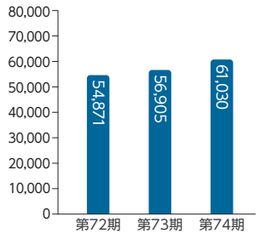
施設のロングライフ化に貢献するメンテナンス工事と経年劣化した設備の機能回復や、より効率的なシステムへの見直しを図るリニューアル工事を中心とした事業分野です。



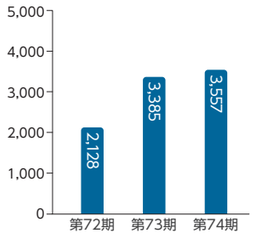
受注高の推移



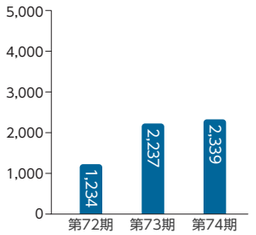
売上高の推移



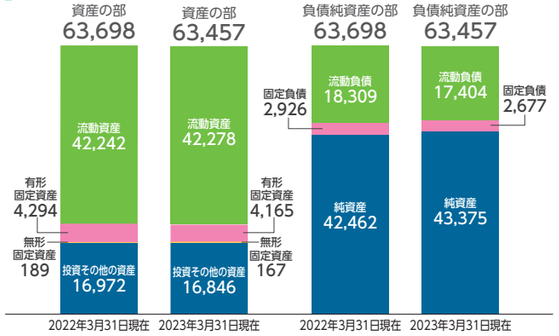
経常利益の推移



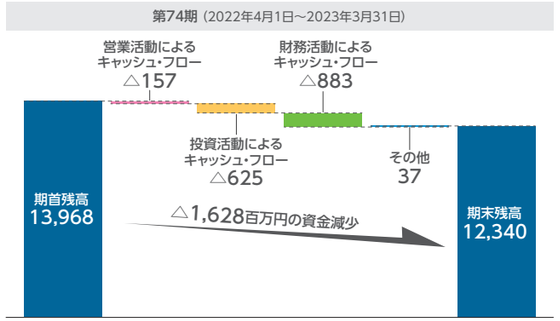
当期純利益の推移



貸借対照表の概要



キャッシュ・フローのポイント



財務のポイント

資産の部

流動資産における受取手形・完成工事未収入金等の増加17億円、電子記録債権の増加2億円、現金及び預金の減少16億円、固定資産における投資有価証券の減少2億円を主な変動要因として、前期末と比較して2億円減少し、634億円となりました。

負債の部

流動負債における未払消費税等の増加11億円、支払手形・工事未払金等の増加8億円、未成工事受入金の増加4億円、電子記録債務の減少35億円を主な変動要因として、前期末と比較して11億円減少し、200億円となりました。

純資産の部

利益剰余金の増加15億円、その他有価証券評価差額金の減少4億円を主な変動要因として、前期末と比較して9億円増加し、433億円となりました。自己資本比率は前期末と比較して1.7ポイント上昇して68.4%となりました。

キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の計上による資金増加35億円、未払消費税等の増加による資金増加19億円、売上債権の増加による資金減少20億円、仕入債務の減少による資金減少26億円を主な変動要因として、現金及び現金同等物は前期末と比較して16億円減少し、123億円となりました。

詳しい情報はウェブサイトへ

テクノ菱和　検索

会社概要 （2023年3月31日現在）

商号	株式会社テクノ菱和 （英文表記 TECHNO RYOWA LTD.）
設立	1949年12月23日
資本金	2,746,800,000円
上場	東京証券取引所スタンダード市場
従業員	775名（連結901名）
本社	東京都豊島区南大塚2丁目26番20号
登記上の所在地	東京都港区芝大門2丁目12番8号
事業内容	当社グループは、産業用空調、冷暖房、給排水、衛生、電気設備等の設計・施工管理といった設備工事業ならびにそれらに付帯する業務を行っております。お客様のビジョンの実現に向けた計画提案、設計、施工、設備診断、アフターメンテナンスといったワンストップサービスを通じて、お客様を総合的にサポートしてまいります。

- ■産業設備関連事業
- ■一般ビル設備関連事業
- ■電気設備工事業
- ■冷熱機器販売事業
- ■太陽光発電事業
- ■不動産賃貸事業
- ■保険代理業
- ■建設資材製造販売業

主な事業所

技術開発研究所（神奈川県横浜市）
東京本店（東京都豊島区）
東関東支店（茨城県土浦市）
北関東支店（埼玉県さいたま市）
東北支店（宮城県仙台市）
横浜支店（神奈川県横浜市）
名古屋支店（愛知県名古屋市）
静岡支店（静岡県静岡市）
大阪支店（大阪府大阪市）
中国支店（岡山県倉敷市）
九州支店（福岡県福岡市）
海外事業部（東京都豊島区）

役員 （2023年6月27日現在）

取締役

代表取締役	黒田英彦
取締役	加藤雅也
取締役	大石勉
取締役	袴田一博
取締役（社外）	武田公温
取締役常勤監査等委員	常木茂
取締役監査等委員（社外）	小坂井千春
取締役監査等委員（社外）	飯髙弘史郎

執行役員

社長執行役員	黒田英彦
専務執行役員	加藤雅也
常務執行役員	大石勉
常務執行役員	袴田一博
上席執行役員	黒田長憲
上席執行役員	窪和敏
上席執行役員	福士富三
上席執行役員	鈴木俊夫
上席執行役員	齋藤吉信
執行役員	堀下浩
執行役員	武石義人
執行役員	武田和夫
執行役員	水野則康
執行役員	大塚弘之
執行役員	菊池智克
執行役員	門司泰宏
執行役員	森茂樹

企業集団の状況 ※連結子会社

東京ダイヤエアコン株式会社※
所在地　東京都新宿区
主要な事業の内容　空調衛生設備工事業

菱和エアコン株式会社※
所在地　愛知県名古屋市
主要な事業の内容　空調衛生設備工事業

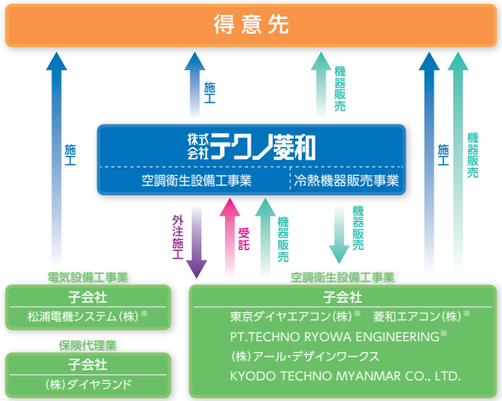
松浦電機システム株式会社※
所在地　大阪府守口市
主要な事業の内容　電気設備工事業

PT.TECHNO RYOWA ENGINEERING※
所在地　インドネシア共和国
主要な事業の内容　空調衛生設備工事業

株式会社アール・デザインワークス
所在地　大阪府大阪市
主要な事業の内容　空調衛生設備工事業

株式会社ダイヤランド
所在地　東京都港区
主要な事業の内容　保険代理業

KYODO TECHNO MYANMAR CO., LTD.
所在地　ミャンマー連邦共和国
主要な事業の内容　建設資材製造販売業



株主優待制度のお知らせ

当社株式を決算期末日に100株以上ご所有の株主様に静岡の新茶をプレゼントいたします。

ご優待品「特選茶」

ご優待内容

ご所有株式数1,000株以上	静岡の新茶2パック贈呈
ご所有株式数100株以上1,000株未満	静岡の新茶1パック贈呈

株式の状況 （2023年3月31日現在）

発行済株式の総数	22,888,604株
株主数	7,895名

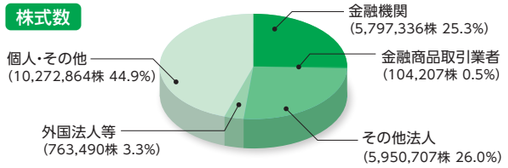
大株主 （2023年3月31日現在）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
テクノ菱和取引先持株会	2,274	10.4
三菱重工サーマルシステムズ株式会社	1,424	6.5
株式会社三菱UFJ銀行	1,071	4.9
株式会社みずほ銀行	1,071	4.9
東京海上日動火災保険株式会社	906	4.1
テクノ菱和従業員持株会	752	3.4
株式会社名古屋銀行	738	3.3
明治安田生命保険相互会社	734	3.3
株式会社京葉銀行	723	3.3
近重　次郎	672	3.0

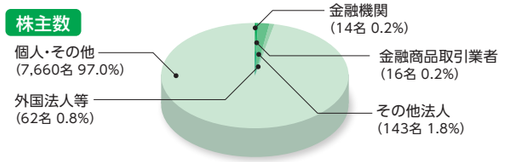
※ 当社は、自己株式1,117,225株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式の分布状況 （2023年3月31日現在）

株式数



株主数



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1−1　電話 0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告掲載URL	https://www.techno-ryowa.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）
諸手続きお問い合わせ先	【住所変更、買取請求その他各種お手続きについて】 ●証券会社をご利用の株主様 お取引の証券会社等にお問い合わせください。 ●特別口座に記録された株式をご所有の株主様 特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。 【株主総会資料に関する書面交付請求について】 株主総会資料は電子提供措置をとっておりますので、書面での送付をご希望の場合は、三菱UFJ信託銀行またはお取引の証券会社等を通じて、「書面交付請求」のお手続きを行ってください。 【未受領の配当金について】 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きの際に必要となります。なお、株式に関するマイナンバーの詳細につきましては、口座を開設されている証券会社等へお問い合わせください。

特別口座をご使用の株主様へ　お早めに株式をお振替えください

特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買を行うことができません（単元未満株式は除く）。また、特別口座で管理されている株式は相続や贈与時のお手続きが煩雑になってしまいます。

ご所有の株式が特別口座に記録されている場合は、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式をお早めにお振替えください。詳しいお手続きにつきましては三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

お手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
お問い合わせ先	〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号　TEL:0120-232-711（通話料無料）

株式会社テクノ菱和
https://www.techno-ryowa.co.jp/
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号
お問い合わせ TEL：03-5978-2541

VEGETABLE OIL INK
環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

UD FONT

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022915